

**アルコール関連問題を
もつ人の家族の実態とニーズに関する調査
「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」
概要報告書**

令和 8 年 2 月

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター

目次

本報告書について.....	3
1. 本報告書で扱う調査票と資料番号.....	3
2. 本報告書内の設問番号と各調査票との対応について.....	3
「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」結果概要.....	4
調査概要.....	4
1. 調査背景.....	4
2. 調査目的.....	4
3. 調査方法.....	4
3-1. 調査対象.....	4
3-2. 調査票の配布および回収期間.....	4
3-3. 調査内容.....	4
4. 回収数と有効回答数（令和7年8月4日時点）.....	5
5. 回答者と当事者の基本属性.....	6
5-1. 回答者の性別・年齢.....	6
5-2. 回答者の当事者との関係.....	7
5-3. 回答者の年齢と当事者との関係性.....	8
5-4. 本報告書における回答者の特徴.....	8
5-5. 当事者の性別・年齢.....	9
5-6. 専門医療機関を初めて利用した年月からの経過年数.....	10
5-7. 問題に気づいてから支援につながるまでの期間.....	11
5-8. 当事者の現在の飲酒状況.....	12
5-9. 当事者の現在の治療状況.....	13
6. 家族が困っている当事者のアルコール問題の種類.....	14
7. 家族の精神的健康.....	15
7-1. K6.....	15
7-2. 自殺念慮の有無.....	17
7-3. 自殺未遂経験の有無.....	17
8. 家族の身体的健康.....	18
8-1. 当事者の世話をしていると感じる身体的負担.....	18
9. 家族の経済的困難.....	22
9-1. 当事者のアルコールによって経済的困難を経験したか.....	22
9-2. 経済的困難尺度.....	23
10. 当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもについて.....	27
10-1. 当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもの人数（分岐の方法）.....	27
10-2. 当事者の子どもが18歳までに行った当事者への世話の種類(子どもが回答者自身ではない場合)	28

10-3. 当事者の子どもが18歳までに当事者から受けた影響（子どもが回答者自身ではない場合） .29

10-4. 当事者の子どもが18歳までに行った当事者への世話の種類（子どもが回答者自身の場合） .30

10-5. 当事者の子どもが18歳までに当事者から受けた影響（子どもが回答者自身の場合） 31

11. 家族の自由記述のKJ法による分析：738名の家族の語りから 32

12. 総合考察 36

巻末資料 38

関係機関・関係者一覧 38

本報告書について

1. 本報告書で扱う調査票と資料番号

本報告書では、以下の調査票の主要指標について集計・分析した結果をとりまとめた。

- ・ 調査票「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」（別添1）

2. 本報告書内の設問番号と各調査票との対応について

本報告書に示した設問番号【Q●】が、各調査票の設問番号と対応している。

別添1の調査票を参照の上、読み進めていただきたい。

「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」結果概要

調査概要

1. 調査背景

平成 26 年に施行されたアルコール健康障害対策基本法（以下、基本法）に基づき、令和 3 年 3 月に閣議決定された「アルコール健康障害対策推進基本計画（第 2 期）（以下、基本計画）」において、「アルコール健康障害の当事者やその家族がより円滑に適切な支援に結びつくように、アルコール健康障害に関する相談から治療、回復支援に至る切れ目のない支援体制を構築する」ことを重点課題のひとつとしている。

基本計画では、「我が国における状況」の「アルコールによる社会的影響」について、「アルコールの問題を抱えてから、半数近くの家が生活や経済的困難に直面し、約 3 割の家は自らが精神的又は身体的問題を抱えるようになったと報告されている」と記しており、これは平成 20 年度障害者保健福祉推進事業「依存症者の社会生活に対する支援のための包括的な地域生活支援事業」の調査結果に基づいている。基本法が施行され、依存症の相談窓口や専門医療機関の整備、自助グループの支援等が行われてきた現在における、アルコール関連問題を抱える家族の状況とニーズを調査する必要がある。

2. 調査目的

本研究は、全国約 230（令和 5 年度末時点）のアルコール依存症専門医療機関のうち、調査協力が得られた機関を来訪した者を対象として、アルコール関連問題をもつ人の家族の実態とニーズについて調査を行うことを目的とする。特に、家族の身体的健康・精神的健康・経済的困難と、当事者の子どもへの影響について重点的に調査を行う。

3. 調査方法

3-1. 調査対象

対象者は、調査協力可能な 98 のアルコール依存症専門医療機関に来訪した 18 歳以上の当事者家族とした。アルコール依存症専門医療機関への来訪とは、当事者の通院の付き添い（初診・再診）、入退院時の付き添い、入院時の面会、医療機関で行われている家族会への参加、当事者についての相談で家族のみが来訪した場合等を指す。

3-2. 調査票の配布および回収期間

- ・配布機関：令和 7 年 4 月 7 日～令和 7 年 7 月 18 日
- ・回収期間：令和 7 年 4 月 7 日～令和 7 年 8 月 4 日

3-3. 調査内容

- ①回答者の基本属性・背景情報：回答者の性別、年齢、婚姻状況、職業、当事者との関係
- ②当事者の基本属性・背景情報：当事者の性別、年齢、職業、その他の依存行為、飲酒状況等

③家族のアルコール問題による困りごと

④支援ニーズに関する項目：問題に気づいてから支援につながるまでの期間，専門医療機関を初めて利用した年月からの経過年数，初めてアルコールの相談機関を利用することになったきっかけ

⑤家族の精神的健康：K6¹，SF12v2²

⑥家族の身体的健康：当事者の世話による身体的負担，SF12v2

⑦家族の経済的困難感：経済的困窮尺度³

⑧当事者の子どもの負担：18歳までに行った当事者への世話の種類・当事者から受けた影響

※本報告書は上記すべての項目を網羅したものではなく，主要な結果を集計したものである。

4. 回収数と有効回答数(令和7年8月4日時点)

配布数：1,963票，回収数：1,158票（配布数に占める割合59.0%），うち有効回答：1,138票（回収数に占める割合98.3%）

¹ Furukawa, T. A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., Kikkawa, T. (2008). The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International Journal of Methods in Psychiatric Research*, 17(3), 152–158.

² Fukuhara, S., & Ware, J. E., Jr. (1998). Japanese version of the SF-36 Health Survey: Translation, cultural adaptation, and validation. *Journal of Clinical Epidemiology*, 51(11), 1037–1044.

³ 西岡 大輔, 上野 恵子, 舟越 光彦, 他 (2020). 医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度の開発. *日本公衆衛生学会雑誌*, 67, 461–470.

5. 回答者と当事者の基本属性

5-1. 回答者の性別・年齢

Q1 あなたの性別を教えてください。(単一選択)

Q2 あなたの年齢を教えてください。(数値記入)

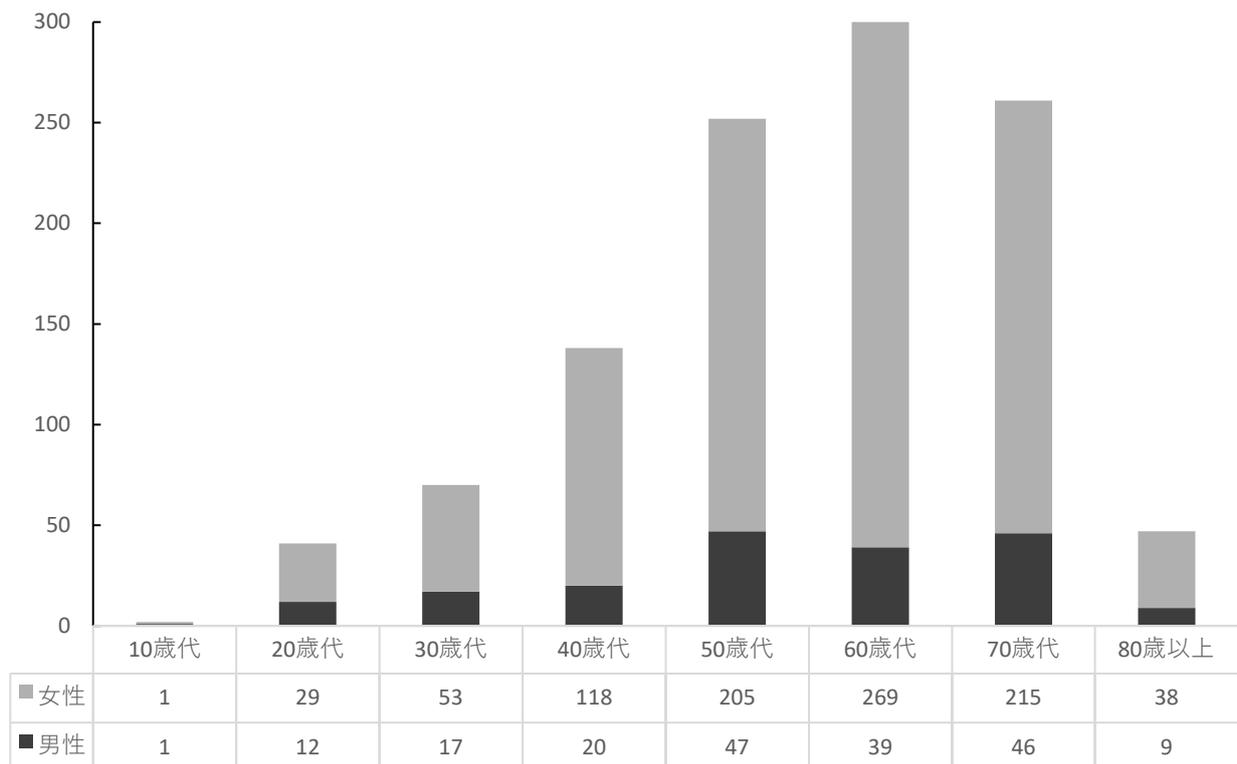
回答者の性別は、女性が 82.9%と大半を占めた。

回答者の平均年齢は、59.47 歳であり、女性では 60 歳代が最も多く、次いで 70 歳代、50 歳代が多かった。男性では 50 歳代が最も多く、次いで 70 歳代、60 歳代が多かった。

平均年齢:59.47 歳±14.14 歳 (男性:58.10 歳±15.91 歳, 女性:59.75 歳±13.71 歳)

(※集計から除外:年齢無回答(n = 7), 性別ごとの集計から除外:年齢無回答(n = 7), 性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10)

【有効回答数:男性:191 名, 女性:928 名, 全体:1,119 名】



※集計から除外:年齢無回答(n = 7), 性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10)

5-2. 回答者の当事者との関係

Q7 アルコール問題をもつ当事者はどなたですか。あなたから見たご関係をお答えください。

(単一選択)

回答者と当事者の関係については、回答者の配偶者（内縁関係を含む）（53.3%）が最も多く、次いで回答者の子ども（25.4%）が多かった。

本報告書の集計では、回答者と当事者の関係を「回答者の配偶者（内縁関係を含む）」「回答者の子ども」「回答者の両親」「その他」の4つに分類し、この後の集計を行った。

回答者から見た当事者との関係	人数(%)
回答者の配偶者(内縁関係含む)	606 (53.3%)
回答者の子ども	289 (25.4%)
回答者の父親	111 (9.8%)
回答者の母親	23 (2.0%)
回答者の兄弟姉妹	85 (7.5%)
回答者の祖父母	0 (0.0%)
回答者の孫	1 (0.1%)
その他	21 (1.8%)
無回答	2 (0.2%)
合計	1,138 (100.0%)

※その他の内訳: パートナー(n = 1), 義父(n = 4), 元配偶者(n = 3), 義兄(n = 3), 義姉(n = 2), 義息子(n = 1), 従弟(n = 2), 叔父・伯父(n = 3), 甥(n = 1), 友人の子ども(n = 1)



本報告書の集計で扱う当事者との関係

回答者から見た当事者との関係	人数(%)
回答者の配偶者(内縁関係含む)	606 (53.3%)
回答者の子ども	289 (25.4%)
回答者の両親(父親・母親)	134 (11.8%)
その他(兄弟姉妹・祖父母・孫を含む)	107 (9.4%)
合計	1,136 (100.0%)

※集計から除外: 無回答(n = 2)

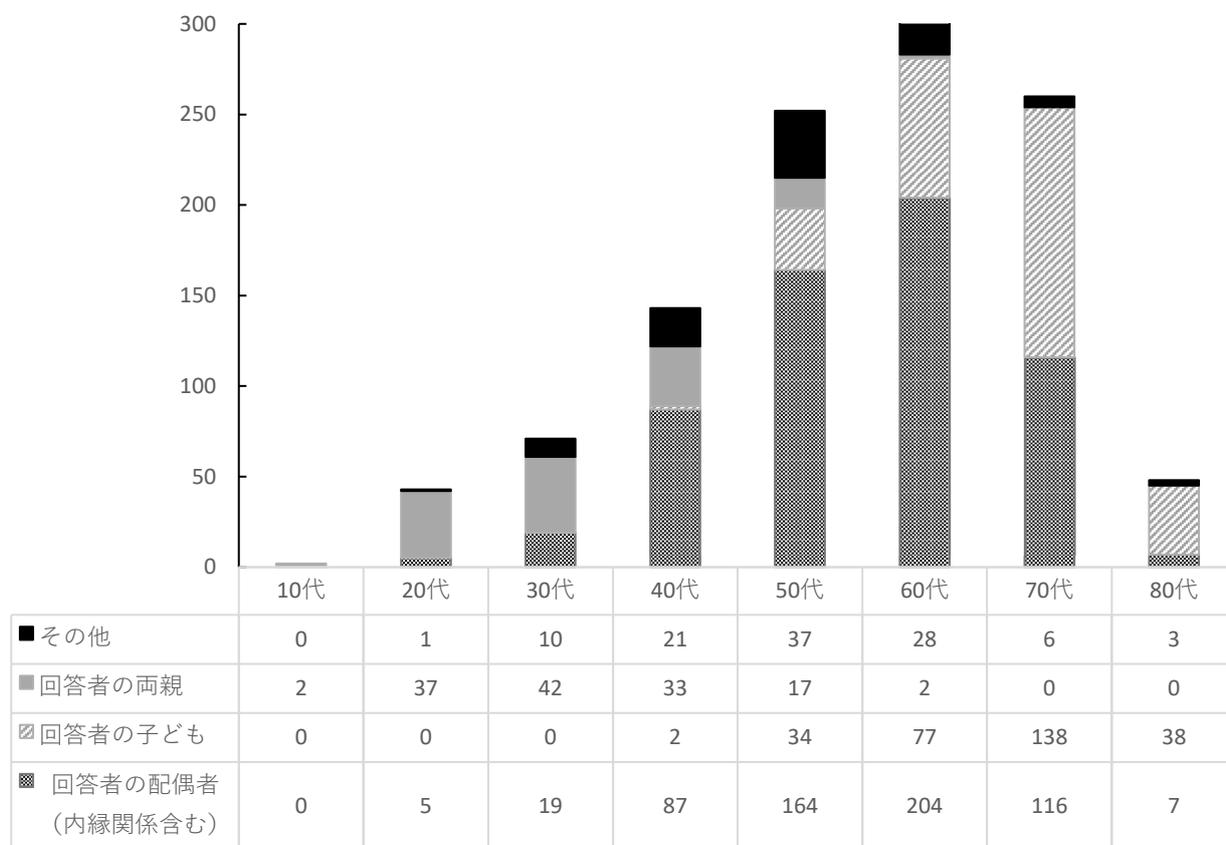
5-3. 回答者の年齢と当事者との関係性

Q2 あなたの年齢を教えてください。

Q7 アルコール問題をもつ当事者はどなたですか。あなたから見たご関係をお答えください。

回答者の年齢と当事者との関係性について、40代、50代、60代では「回答者の配偶者」が最も多かった。10代、20代、30代では「回答者の両親」が最も多く、70代、80代では「回答者の子ども」が最も多かった。

【有効回答数:回答者の配偶者:602名, 回答者の子ども:289名, 回答者の両親:133名, その他:106名, 全体:1,130名】



※集計から除外:年齢無回答(n = 7), 当事者との関係性無回答(n = 2)

5-4. 本報告書における回答者の特徴

回答者は女性が8割以上を占めた。年齢は全体として高く、60代、70代、50代の順で高かった。当事者との関係性については、配偶者(53.3%)が最も多かったが、回答者の年齢が上がると各年代における子どもが占める割合が高くなった。なお、配偶者と回答した者のほとんどが当事者の妻であった。

5-5. 当事者の性別・年齢

Q8 アルコール問題をもつ当事者の性別を教えてください。(単一選択)

Q9 アルコール問題をもつ当事者の年齢を教えてください。(数値記入)

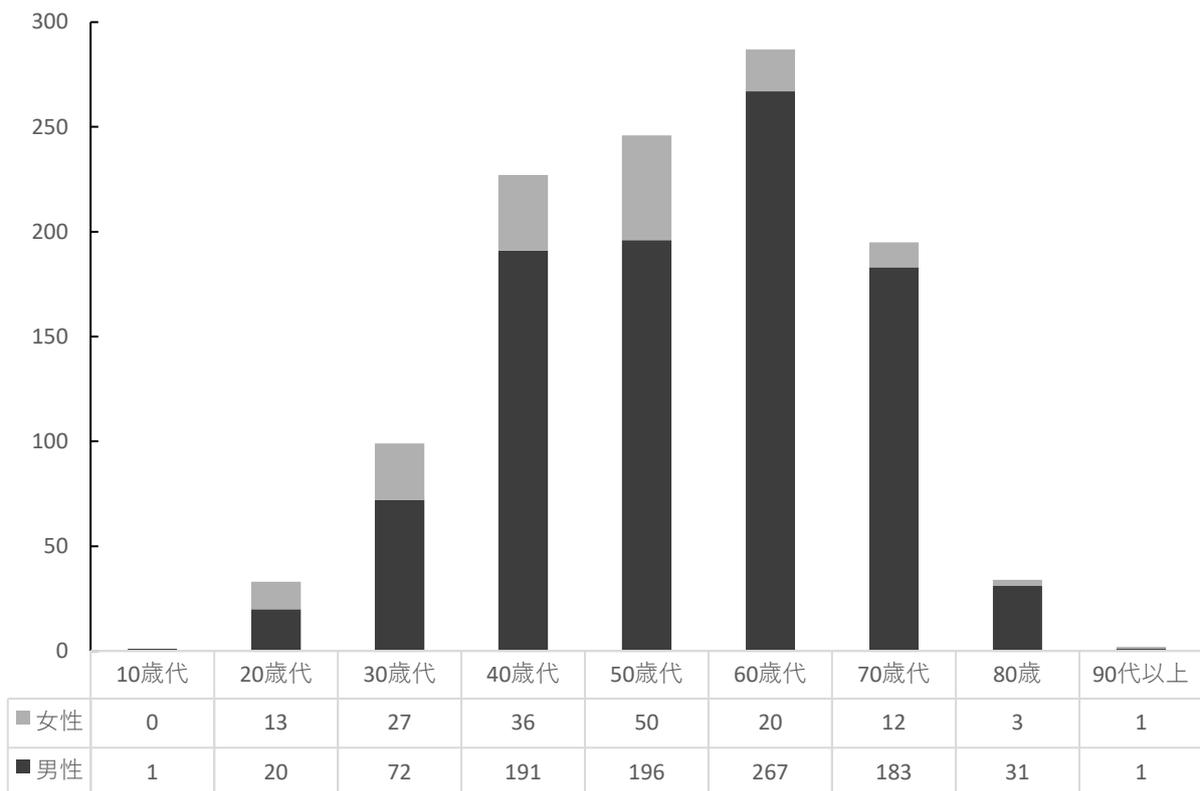
当事者の性別は、男性が 85.6%と多数を占めた。

当事者の平均年齢は、56.72 歳であり、女性では 50 歳代が最も多く、次いで 40 歳代、30 歳代が多かった。男性では 60 歳代が最も多く、次いで 50 歳代、40 歳代が多かった。

平均年齢:56.72 歳±14.05 歳 (男性:57.85 歳±13.76 歳, 女性:50.11 歳±14.11 歳)

(※集計から除外:年齢無回答(n = 9), 性別ごとの集計から除外:年齢無回答(n = 9), 性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 4))

【有効回答数:当事者男性 962 名, 当事者女性:162 名, 当事者全体:1,124 名】



※集計から除外:年齢無回答(n = 9), 性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 4)

5-6. 専門医療機関を初めて利用した年月からの経過年数

Q17 あなたが当事者のアルコール問題で初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？おおよその時期を西暦でお答えください。(数値記入:西暦□□□□年□□月頃)

回答者が当事者のアルコール問題について初めて相談してからの期間の中央値は、3年4ヵ月であった。期間を区分ごとに見ると、1年以上3年未満(19.7%)が最も多く、次いで5年以上10年未満(18.1%)、6ヵ月未満(17.0%)が多かった。

期間の中央値:3年4ヵ月

※平均値についてはばらつきが大きいため掲載なし。

【計算方法】

2025年8月から、Q17で回答した年月を引くことで「初めて相談してから現在までの期間」を算出。

初めて相談してからの期間	人数 (%)
6ヵ月未満	184 (17.0%)
6ヵ月以上1年未満	101 (9.3%)
1年以上3年未満	213 (19.7%)
3年以上5年未満	154 (14.2%)
5年以上10年未満	196 (18.1%)
10年以上20年未満	163 (15.1%)
20年以上30年未満	52 (4.8%)
30年以上	19 (1.8%)

※集計から除外:Q17に無回答(n=49), Q17に無効回答(2025年8月よりも後の年月または100年以上前の年月を記載)(n=7)

※西暦に記載があるものの、月頃に記載がない者については、西暦××××年6月頃、として計算した。

5-7. 問題に気づいてから支援につながるまでの期間

Q16 あなたが当事者のアルコール問題に気づいたのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答え下さい。※□に数字を記入

Q17 あなたが当事者のアルコール問題で初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答えください。※□に数字を記入

回答者が当事者のアルコール問題気づいてから初めて病院や相談機関を利用するまでの期間の中央値は、1年11ヵ月であった。期間を区分ごとに見ると、6ヵ月未満（33.8%）が最も多く、次いで1年以上3年未満（18.2%）、5年以上10年未満（13.1%）が多かった。

期間の中央値:1年11ヵ月

※平均値についてはばらつきが大きいため掲載なし。

【計算方法】

Q17 で回答した年月から、Q16 で回答した年月を引くことで「問題に気づいてから支援につながるまでの期間」を算出。

問題に気づいてから支援につながるまでの期間	人数 (%)
6ヵ月未満	350 (33.8%)
6ヵ月以上1年未満	67 (6.5%)
1年以上3年未満	189 (18.2%)
3年以上5年未満	104 (10.0%)
5年以上10年未満	136 (13.1%)
10年以上20年未満	113 (10.9%)
20年以上30年未満	50 (4.8%)
30年以上	27 (2.6%)

※集計から除外: Q16 または Q17 に無回答 (n = 76), Q16 と Q17 で矛盾 (Q17 が Q16 よりも前の年月になっている) (n = 18), Q16 または Q17 が無効回答 (どちらかに 2025 年 8 月よりも後の年月または 100 年以上前の年月を記載) (n = 8)

※西暦に記載があるものの、月頃に記載がない者については、西暦××××年6月頃、として計算した。

5-8. 当事者の現在の飲酒状況

Q15 アルコール問題をもつ当事者は現在飲酒をやめていますか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(単一選択)

アルコール問題をもつ当事者の現在の飲酒状況について回答者との関係性ごとにたずねた。その結果、全体として「やめている」(42.1%)の回答が最も多く、次いで「飲酒できない状態(入院, 服役など)」(23.4%)が多かった。当事者の関係性ごとに見ると、配偶者(47.4%), その他(40.0%), 両親(父・母)(37.1%)の順で「やめている」の割合が高かった。

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
やめている	281 (47.4%)	97 (34.2%)	49 (37.1%)	42 (40.0%)	469 (42.1%)
飲酒できない状態 (入院, 服役など)	115 (19.4%)	64 (22.5%)	43 (32.6%)	39 (37.1%)	261 (23.4%)
やめてはいないが 以前より減った	89 (15.0%)	39 (13.7%)	8 (6.1%)	5 (5.7%)	142 (12.7%)
以前より増えた	9 (1.5%)	8 (2.8%)	5 (3.8%)	0 (0.0%)	22 (2.0%)
やめていない	85 (14.3%)	65 (22.9%)	25 (18.9%)	17 (16.2%)	192 (17.2%)
その他	8 (1.3%)	4 (1.4%)	1 (0.8%)	1 (1.0%)	14 (1.3%)
わからない	6 (1.0%)	7 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	14 (1.3%)

※集計から除外: 当事者との関係性無回答(n = 2), Q15に無回答(n = 22)

※その他の内容: 「断酒しようとしているが時々飲酒」(n = 1), 「体調不良により今はやめている」(n = 1), 「食道がん手術して飲めなくなった」(n = 1), 「再飲酒」(n = 1), 「かくれて飲んでいる時々」(n = 1), 「現在認知症治療の為に入院中」(n = 1), 「7年間断酒, 断薬していたが今年5月にスリップ」(n = 1), その他の内容無回答(n = 7)

5-9. 当事者の現在の治療状況

Q18 アルコール問題をもつ当事者の、アルコールの専門医療機関での治療経験について、最もあてはまるものひとつに○をつけてください。(単一選択)

当事者のアルコール専門医療機関での治療経験についてたずねたところ、全体では「継続して治療を受けている」(69.4%)が最も多かった。

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
継続して治療を受けている	429 (71.3%)	200 (69.9%)	86 (64.2%)	68 (63.6%)	783 (69.4%)
初めて治療を受ける(予定)	68 (11.3%)	24 (8.4%)	23 (17.2%)	23 (21.5%)	138 (12.2%)
以前は治療を受けていたが今は受けていない	65 (10.8%)	39 (13.6%)	8 (6.0%)	10 (9.3%)	122 (10.8%)
治療を受けたことがない	33 (5.5%)	19 (6.6%)	13 (9.7%)	2 (1.9%)	67 (5.9%)
わからない	7 (1.2%)	4 (1.4%)	4 (3.0%)	4 (3.7%)	19 (1.7%)

※集計から除外: 当事者との関係性無回答(n = 2), Q18 に無回答(n = 7)

6. 家族が困っている当事者のアルコール問題の種類

Q13 家族であるあなたが困っている当事者の問題は何ですか？

困っている問題を1番目から3番目まで選び下の回答欄にア～オで記入してください。

回答者が困っている当事者の問題についてたずねた。なお、本報告書では、1番目から3番目の回答を複数選択と見なし、順位付けをせずに集計した。

その結果、「精神的問題（うつ，不安，睡眠障害，物忘れなど）」（71.3%）と「身体的問題（肝炎などの身体の病気・身体機能の低下など）」（69.5%）が7割前後であった。「社会的問題（飲酒運転，学業への影響，仕事への影響など）」（52.1%）も回答者の半数以上が選択していた。

家族が困っている当事者の問題	人数(%)
身体的問題(肝炎などの身体の病気・身体機能の低下など)	777 (69.5%)
精神的問題(うつ, 不安, 睡眠障害, 物忘れなど)	797 (71.3%)
社会的問題(飲酒運転, 学業への影響, 仕事への影響など)	582 (52.1%)
家庭の問題(家庭不和, DV, 別居など)	500 (44.7%)
経済的問題(休職, 失業, 収入の低下)	508 (45.4%)

※集計から除外: Q13 に一つも回答なし (n = 18), Q13 の「1番」に対して複数回答 (n = 2)

※割合(%)は全回答者から上記「集計から除外」を除いた人数 (n = 1,118)に占める割合

7. 家族の精神的健康

7-1. K6

Q19 あなたは過去 30 日間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号(0:全くない～4:いつも)を選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)
※あなたご自身のことについてお答えください。

【K6 の 6 つの質問】

回答者の「抑うつ・不安」の程度について、K6 を用いてたずねた。その結果、過去 30 日間に「抑うつ・不安」の問題がある者 (K6 得点 5 点以上) は、全体の 73.7% (男性 68.6%, 女性 74.8%) であった。

当事者の関係性ごとに見ると、過去 30 日間に「抑うつ・不安」の問題がある者 (K6 得点 5 点以上) は配偶者で 73.0%, 子どもで 78.8%, 両親 (父・母) で 67.9%, その他で 71.4%であり、回答者から見て当事者が子どもか配偶者である場合に、「抑うつ・不安」の問題がある者が多かった。

当事者と同居しているかどうかで見ると、過去 30 日間に「抑うつ・不安」の問題がある者 (K6 得点 5 点以上) は「同居している」で 73.6%, 「同居していない」で 73.3%であった。

【K6 得点の評価方法】

0-4 点	問題なし
5-9 点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10-12 点	うつ・不安障害が疑われる
13 点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【回答者の性別とのクロス表】

		男性	女性	全体
K6 得点 区分	0-4 点	58 (31.4%)	218 (25.2%)	276 (26.3%)
	5-9 点	48 (25.9%)	233 (27.0%)	281 (26.8%)
	10-12 点	32 (17.3%)	137 (15.9%)	169 (16.1%)
	13 点以上	47 (25.4%)	276 (31.9%)	323 (30.8%)
	全体	185 (100.0%)	864 (100.0%)	1,049 (100.0%)

※集計から除外: 性別無回答 (n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), K6 に一問でも回答なし(n = 76)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

		配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
K6 得点 区分	0-4点	153 (27.0%)	56 (21.2%)	42 (32.1%)	28 (28.6%)	279 (26.3%)
	5-9点	143 (25.2%)	71 (26.9%)	38 (29.0%)	32 (32.7%)	284 (26.8%)
	10-12点	93 (16.4%)	47 (17.8%)	16 (12.2%)	13 (13.3%)	169 (15.9%)
	13点以上	178 (31.4%)	90 (34.1%)	35 (26.7%)	25 (25.5%)	328 (30.9%)
	全体	567 (100.0%)	264 (100.0%)	131 (100.0%)	98 (100.0%)	1,060(100.0%)

※集計から除外:当事者との関係性無回答(n = 2), K6に一問でも回答なし(n = 76)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

		同居している	同居していない	全体
K6 得点 区分	0-4点	196 (26.4%)	80 (26.7%)	276 (26.5%)
	5-9点	187 (25.2%)	93 (31.0%)	280 (26.8%)
	10-12点	115 (15.5%)	51 (17.0%)	166 (15.9%)
	13点以上	245 (33.0%)	76 (25.3%)	321 (30.8%)
	全体	743 (100.0%)	300 (100.0%)	1,043 (100.0%)

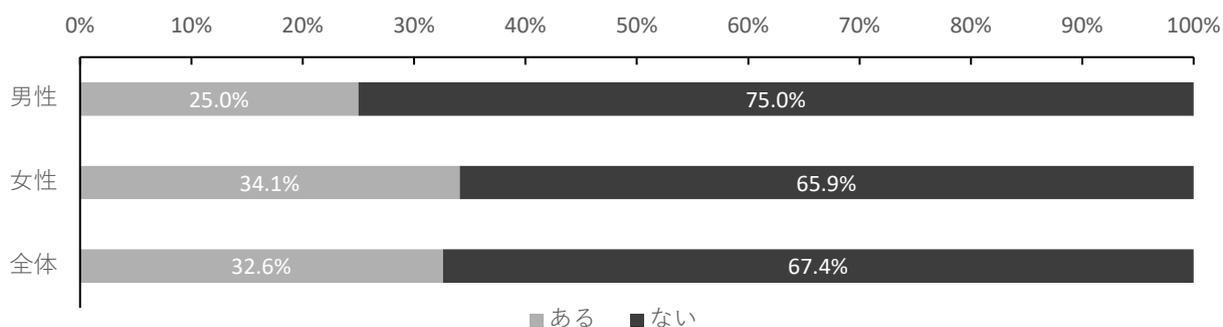
※集計から除外:当事者との同居の有無無回答(n = 24), K6に一問でも回答なし(n = 76)

7-2. 自殺念慮の有無

Q20 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

生涯の自殺念慮についてたずねたところ、全体の 32.6% (男性 25.0%、女性 34.1%) が「ある」と回答した。

【有効回答数:男性: 180 名, 女性:873 名, 全体:1,053 名】



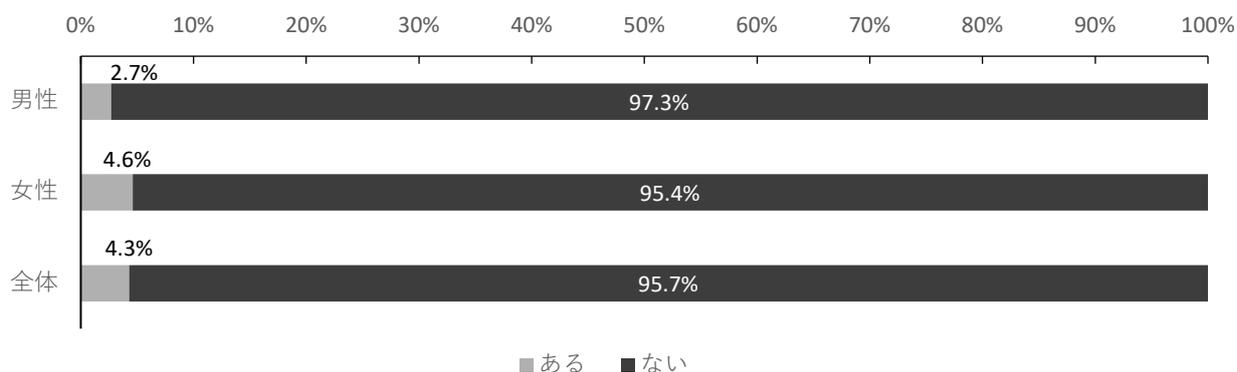
※集計から除外:性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q20 に「答えたくない」を選択(n = 68), Q20 に無回答(n = 7)

7-3. 自殺未遂経験の有無

Q21 あなたは、これまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

生涯の自殺未遂経験についてたずねたところ、全体の 4.3% (男性 2.7%、女性 4.6%) が「ある」と回答した。

【有効回答数:男性:185 名, 女性:904 名, 全体:1,089 名】



※集計から除外:性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q21 に「答えたくない」を選択(n = 30), Q21 に無回答(n = 8)

8. 家族の身体的健康

8-1. 当事者の世話をしている感じる身体的負担

Q22 あなたは当事者の世話をしている下記の項目のように思うことが過去 1 ヶ月の間にどれくらいありましたか。最も適当と思われる番号(1:いつも～5:全くない)を選んで○をつけてください。(単一選択)

① 当事者の世話(介護)をしながら身体を痛める

当事者の世話をしている身体を痛めるかたずねた。「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」が全体の 31.7% (男性 22.9%, 女性 33.7%) であった。

当事者の関係性ごとに見ると、身体を痛めるかについて「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」と回答した割合は、配偶者 (34.9%), 子ども (33.9%), その他 (22.5%) の順で高かった。当事者と同居しているかどうかで見ると、身体を痛めるかについて「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」と回答した割合は、「同居している」で 32.7%, 「同居していない」で 31.3% であった。

【回答者の性別とのクロス表】

	男性	女性	全体
いつも思う	3 (1.6%)	49 (5.5%)	52 (4.8%)
よく思う	10 (5.3%)	54 (6.1%)	64 (5.9%)
ときどき思う	30 (16.0%)	197 (22.1%)	227 (21.0%)
ほとんど思わない	61 (32.4%)	248 (27.8%)	309 (28.6%)
全く思わない	84 (44.7%)	344 (38.6%)	428 (39.6%)
全体	118 (100.0%)	892 (100.0%)	1,080 (100.0%)

※集計から除外: 性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q22①に無回答(n = 45)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
いつも思う	29 (4.9%)	16 (5.9%)	3 (2.3%)	4 (3.9%)	52 (4.8%)
よく思う	41 (7.0%)	13 (4.8%)	7 (5.4%)	3 (2.9%)	64 (5.9%)
ときどき思う	135 (23.0%)	63 (23.2%)	15 (11.6%)	16 (15.7%)	229 (21.0%)
ほとんど思わない	160 (27.2%)	96 (35.3%)	27 (20.9%)	30 (29.4%)	313 (28.7%)
全く思わない	223 (37.9%)	84 (30.9%)	77 (59.7%)	49 (48.0%)	433 (39.7%)
全体	588 (100.0%)	272 (100.0%)	129 (100.0%)	102 (100.0%)	1,091 (100.0%)

※集計から除外: 当事者との関係性無回答(n = 2), Q22①に無回答(n = 45)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

	同居している	同居していない	全体
いつも思う	41 (5.3%)	10 (3.3%)	51 (4.8%)
よく思う	48 (6.2%)	14 (4.6%)	62 (5.8%)
ときどき思う	163 (21.2%)	59 (19.4%)	222 (20.7%)
ほとんど思わない	222 (28.9%)	85 (28.0%)	307 (28.6%)
全く思わない	295 (38.4%)	136 (44.7%)	431 (40.2%)
全体	769 (100.0%)	304 (100.0%)	1,073 (100.0%)

※集計から除外：当事者との同居の有無無回答 (n = 24), Q22①に無回答 (n = 45)

② 当事者の世話(介護)のために自分の健康をそこなった

当事者の世話のために自分の健康をそこなったと思うかたずねた。「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」が全体の47.5%（男性31.1%，女性50.9%）であった。

当事者の関係性ごとに見ると，自身の健康をそこなったに「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」と回答した割合は，配偶者（52.0%），子ども（47.1%），その他（38.9%）の順で高かった。

当事者と同居しているかどうかで見ると，自身の健康をそこなったに「ときどき思う」「よく思う」「いつも思う」と回答した割合は，「同居している」で49.9%，「同居していない」で41.1%であった。

【回答者の性別とのクロス表】

	男性	女性	全体
いつも思う	5 (2.7%)	61 (6.8%)	66 (6.1%)
よく思う	13 (7.0%)	119 (13.3%)	132 (12.2%)
ときどき思う	40 (21.4%)	276 (30.8%)	316 (29.2%)
ほとんど思わない	55 (29.4%)	213 (23.8%)	268 (24.7%)
全く思わない	74 (39.6%)	227 (25.3%)	301 (27.8%)
全体	187 (100.0%)	896 (100.0%)	1,083 (100.0%)

※集計から除外：集計から除外：性別無回答(n = 3)，性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10)，Q22②に無回答(n = 42)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
いつも思う	41 (7.0%)	15 (5.5%)	4 (3.1%)	7 (6.8%)	67 (6.1%)
よく思う	87 (14.8%)	30 (10.9%)	13 (10.0%)	5 (4.9%)	135 (12.3%)
ときどき思う	177 (30.2%)	84 (30.7%)	29 (22.3%)	28 (27.2%)	318 (29.1%)
ほとんど思わない	144 (24.5%)	70 (25.5%)	28 (21.5%)	28 (27.2%)	270 (24.7%)
全く思わない	138 (23.5%)	75 (27.4%)	56 (43.1%)	35 (34.0%)	304 (27.8%)
全体	587 (100.0%)	274 (100.0%)	130 (100.0%)	103 (100.0%)	1,094 (100.0%)

※集計から除外：当事者との関係性無回答(n = 2)，Q22②に無回答(n = 42)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

	同居している	同居していない	全体
いつも思う	47 (6.1%)	19 (6.2%)	66 (6.1%)
よく思う	101 (13.1%)	30 (9.8%)	131 (12.2%)
ときどき思う	236 (30.7%)	77 (25.1%)	313 (29.1%)
ほとんど思わない	190 (24.7%)	76 (24.8%)	266 (24.7%)
全く思わない	195 (25.4%)	105 (34.2%)	300 (27.9%)
全体	769 (100.0%)	307 (100.0%)	1,076 (100.0%)

※集計から除外：当事者との同居の有無無回答 (n = 24), Q22②に無回答 (n = 42)

9. 家族の経済的困難

9-1. 当事者のアルコールによって経済的困難を経験したか

Q24 当事者のアルコール問題が起こってから、あなたは経済的な困難(家計の支払いなどについての困難)を感じたことはありますか。(単一選択)

当事者のアルコール問題が起こってから経済的な困難を感じたことがあるかたずねた。「ある」と答えた者が全体の42.1% (男性37.0%, 女性43.2%)であった。

当事者の関係性ごとに見ると、配偶者(44.8%), 子ども(44.2%), その他(36.0%)の順で「ある」と回答した割合が高かった。

当事者と同居しているかどうかで見ると、「ある」と回答した割合は、「同居している」で43.9%, 「同居していない」で37.4%であった。

【回答者の性別とのクロス表】

	男性	女性	全体
ない	116 (63.0%)	497 (56.8%)	613 (57.9%)
ある	68 (37.0%)	378 (43.2%)	446 (42.1%)
全体	184 (100.0%)	875 (100.0%)	1,059 (100.0%)

※集計から除外:集計から除外:性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q24に無回答(n = 66)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
ない	320 (55.2%)	145 (55.8%)	89 (68.5%)	64 (64.0%)	618 (57.8%)
ある	260 (44.8%)	115 (44.2%)	41 (31.5%)	36 (36.0%)	452 (42.2%)
全体	580 (100.0%)	260 (100.0%)	130 (100.0%)	100 (100.0%)	1,070 (100.0%)

※集計から除外:当事者との関係性無回答(n = 2), Q24に無回答(n = 66)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

	同居している	同居していない	全体
ない	420 (56.1%)	191 (62.6%)	611 (58.0%)
ある	328 (43.9%)	114 (37.4%)	442 (42.0%)
全体	748 (100.0%)	305 (100.0%)	1,053 (100.0%)

※集計から除外:当事者との同居の有無無回答(n = 18), Q24に無回答(n = 35)

9-2. 経済的困難尺度

Q25 以下の2つの項目について、最もあてはまる番号に○をつけてください。

※あなたご自身のことについてお答えください。

① この1年で、家計の支払い(税金、保険料、通信費、電気代、クレジットカードなど)に困ったことはありますか。(単一選択)

9-1.で経済的な困難を感じたことがあるとの回答した者を対象に、この1年で家計の支払いに困ったことがあるか、その頻度をたずねた。全体の56.7% (男性52.2%, 女性57.5%)がこの1年で1回以上、家計の支払いに困ったことがあると回答した。

当事者の関係性ごとに見ると、両親(父・母)(62.5%), 配偶者(59.4%), 子ども(52.1%)の順に、この1年で1回以上家計の支払いに困ったことがある、と回答した割合が高かった。

当事者と同居しているかどうかで見ると、この1年で1回以上家計の支払いに困ったことがある、と回答した割合は、「同居している」で58.6%, 「同居していない」で50.9%であった。

【回答者の性別とのクロス表】

	男性	女性	全体
ない	32 (47.8%)	165 (42.5%)	197 (43.3%)
1回ある	11 (16.4%)	46 (11.9%)	57 (12.5%)
2~3回ある	13 (19.4%)	75 (19.3%)	88 (19.3%)
4~5回ある	5 (7.5%)	20 (5.2%)	25 (5.5%)
6回以上ある	6 (9.0%)	82 (21.1%)	88 (19.3%)
全体	67 (100.0%)	388 (100.0%)	455 (100.0%)

※集計から除外:集計から除外:性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q24で「ない」を選択(n = 619), Q25①に無回答(n = 57)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
ない	108 (40.6%)	56 (47.9%)	15 (37.5%)	20 (52.6%)	199 (43.2%)
1回ある	26 (9.8%)	18 (15.4%)	7 (17.5%)	5 (13.2%)	56 (12.1%)
2~3回ある	55 (20.7%)	19 (16.2%)	9 (22.5%)	6 (15.8%)	89 (19.3%)
4~5回ある	17 (6.4%)	5 (4.3%)	2 (5.0%)	2 (5.3%)	26 (5.6%)
6回以上ある	60 (22.6%)	19 (16.2%)	7 (17.5%)	5 (13.2%)	91 (19.7%)
全体	266 (100.0%)	117 (100.0%)	40 (100.0%)	38 (100.0%)	461 (100.0%)

※集計から除外:当事者との関係性無回答(n = 2), Q24で「ない」を選択(n = 619), Q25①に無回答(n = 57)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

	同居している	同居していない	全体
ない	138 (41.4%)	57 (49.1%)	195 (43.4%)
1回ある	36 (10.8%)	17 (14.7%)	53 (11.8%)
2～3回ある	64 (19.2%)	22 (19.0%)	86 (19.2%)
4～5回ある	20 (6.0%)	5 (4.3%)	25 (5.6%)
6回以上ある	75 (22.5%)	15 (12.9%)	90 (20.0%)
全体	333 (100.0%)	116 (100.0%)	449 (100.0%)

※集計から除外：当事者との同居の有無無回答 (n = 24), Q24 で「ない」を選択 (n = 619), Q25①に無回答 (n = 57)

② この1年間に、給与や年金の支給日前に、暮らしに困ることがありましたか。(単一選択)

9-1.で経済的な困難を感じたことがあるとの回答した者を対象に、この1年で給与や年金の支給日前に暮らしに困ることがあったか、その頻度をたずねた。全体の50.8% (男性50.7%, 女性50.8%) が、この1年間で1回以上給与や年金の支給日前に暮らしに困ることがあった、と回答した。

当事者の関係性ごとに見ると、配偶者(54.7%), 両親(父・母)(52.5%), 子ども(43.1%)の順で、この1年で1回以上家計の支払いに困ったことがある、と回答した割合が高かった。

当事者と同居しているかどうかで見ると、この1年で1回以上家計の支払いに困ったことがある、と回答した割合は、「同居している」で52.3%, 「同居していない」で44.8%であった。

【回答者の性別とのクロス表】

	男性	女性	全体
ない	33 (49.3%)	191 (49.2%)	224 (49.2%)
1回ある	13 (19.4%)	38 (9.8%)	51 (11.2%)
2~3回ある	12 (17.9%)	67 (17.3%)	79 (17.4%)
4~5回ある	3 (4.5%)	26 (6.7%)	29 (6.4%)
6回以上ある	6 (9.0%)	66 (17.0%)	72 (15.8%)
全体	67 (100.0%)	388 (100.0%)	455 (100.0%)

※集計から除外:集計から除外:性別無回答(n = 3), 性別が「その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)」(n = 10), Q24で「ない」を選択(n = 619), Q25②に無回答(n = 57)

【回答者から見た当事者の関係性とのクロス表】

	配偶者	子ども	両親(父・母)	その他	全体
ない	121 (45.3%)	66 (56.9%)	19 (47.5%)	21 (55.3%)	227 (49.2%)
1回ある	26 (9.7%)	12 (10.3%)	6 (15.0%)	7 (18.4%)	51 (11.1%)
2~3回ある	49 (18.4%)	17 (14.7%)	8 (20.0%)	5 (13.2%)	79 (17.1%)
4~5回ある	20 (7.5%)	6 (5.2%)	2 (5.0%)	1 (2.6%)	29 (6.3%)
6回以上ある	51 (19.1%)	15 (12.9%)	5 (12.5%)	4 (10.5%)	75 (16.3%)
全体	267 (100.0%)	116 (100.0%)	40 (100.0%)	38 (100.0%)	461 (100.0%)

※集計から除外:当事者との関係性無回答(n = 2), Q24で「ない」を選択(n = 619), Q25②に無回答(n = 57)

【当事者との同居の有無とのクロス表】

	同居している	同居していない	全体
ない	159 (47.7%)	64 (55.2%)	223 (49.7%)
1 回ある	30 (9.0%)	18 (15.5%)	48 (10.7%)
2～3 回ある	60 (18.0%)	15 (12.9%)	75 (16.7%)
4～5 回ある	23 (6.9%)	6 (5.2%)	29 (6.5%)
6 回以上ある	61 (18.3%)	13 (11.2%)	74 (16.5%)
全体	333 (100.0%)	116 (100.0%)	449 (100.0%)

※集計から除外：当事者との同居の有無無回答 (n = 24), Q24 で「ない」を選択 (n = 619), Q25②に無回答 (n = 57)

10. 当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもについて

10-1. 当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもの人数(分岐の方法)

Q27-1 アルコール問題をもつ当事者に子どもはいますか。(単一選択)

Q27-2 アルコール問題をもつ当事者の子どもとは、あなた自身のことですか？(単一選択)

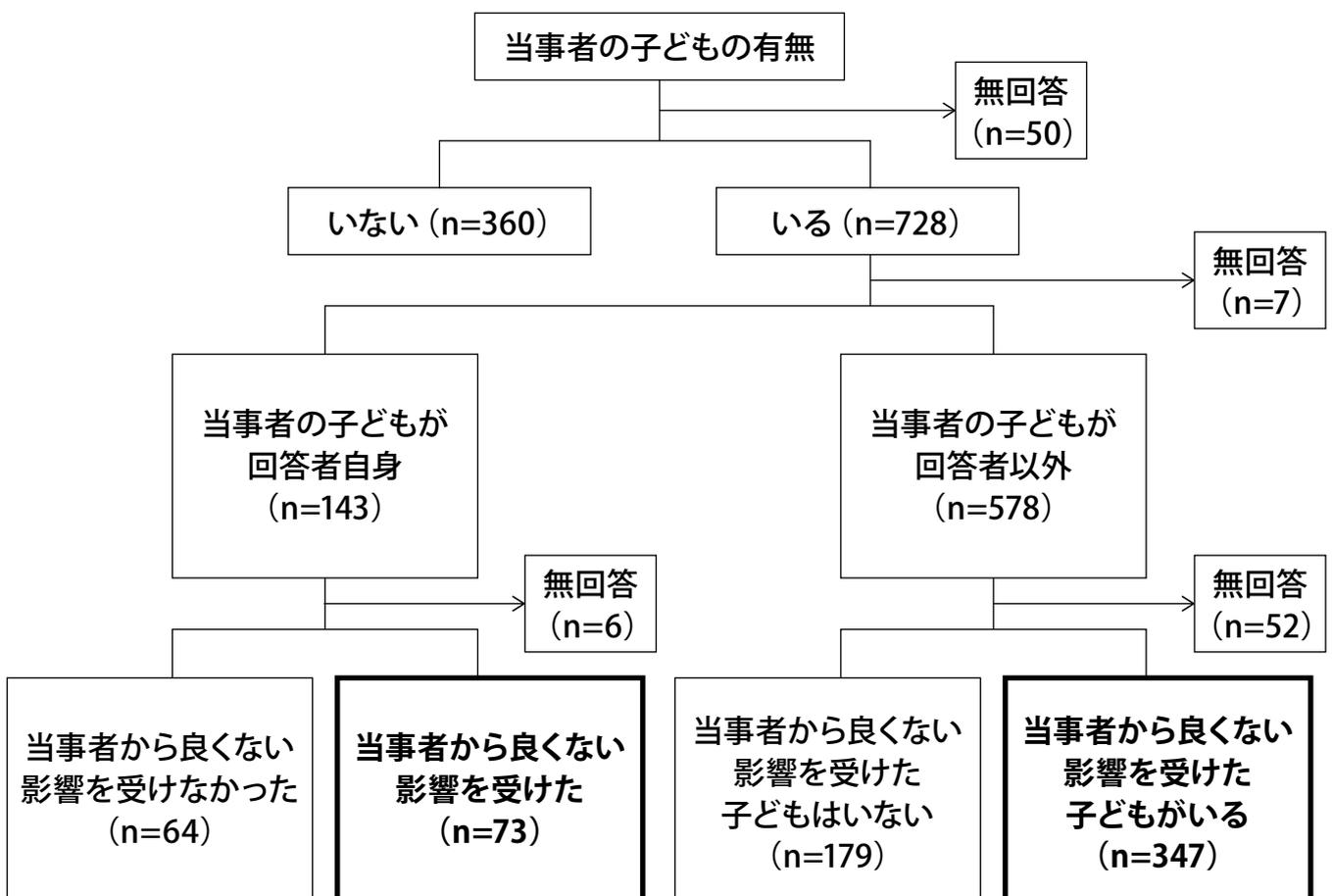
Q28 アルコール問題をもつ当事者から良くない影響を受けたと思われる子どもはいますか。(単一選択)

Q34 18歳までにあなたはアルコール問題をもつ当事者(親)から良くない影響を受けましたか。(単一選択)

当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもについて調査するために、当事者の子どもの有無と、当事者の子どもが回答者自身かどうかをたずねた。回答者が当事者の子どもでない場合は、当事者から良くない影響を受けた子どもがいるか、についてたずね、回答者自身が当事者の子どもである場合は、回答者が自身の親である当事者から良くない影響を受けたか、についてたずねた。

その結果、回答者が当事者の子どもでない場合に、「当事者から良くない影響を受けた子どもがいる」と回答した者は347名であった。また、回答者自身が当事者の子どもであり、「当事者から良くない影響を受けた」と回答した者は73名であった。

これ以降の集計では、「当事者から良くない影響を受けた子どもがいる」と回答した者347名と、「当事者から良くない影響を受けた」と回答した者73名を集計の対象とした。



10-2. 当事者の子どもが 18 歳までに行った当事者への世話の種類(子どもが回答者自身ではない場合)

Q32 その子どもは、18 歳までに当事者(親)に対して以下のお世話を行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

当事者の子どもが 18 歳までに当事者に対してどのような世話をしていたかたずねた。その結果、「あてはまるものはない」(61.1%) が最も多く、次いで「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(20.5%)、「見守り」(13.9%) が多かった。

世話の種類	人数(%)
家事(食事の準備や家事, 洗濯)	26 (7.8%)
きょうだいの世話や保育所への送迎	17 (5.1%)
身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	3 (0.9%)
外出の付き添い(買い物, 散歩など)	17 (5.1%)
通院の付き添い	19 (5.7%)
感情面のサポート(愚痴を聞く, 話し相手になるなど)	68 (20.5%)
見守り	46 (13.9%)
通訳(日本語や手話など)	1 (0.4%)
金銭管理	2 (0.6%)
薬の管理	4 (1.2%)
自助グループの付き添い	8 (2.4%)
その他	13 (3.9%)
あてはまるものはない	203 (61.1%)

※その他の内訳:トイレの後始末(n = 2), 車での送迎(n = 1), 生まれたときからAAIに連れていかれた(n = 1), 散らかしや吐血の後始末(n = 2), わからない(n = 2), お酒を取りに行く(冷蔵庫まで)(n = 1), 病院のつきそい(ケガした時), 親トイレ汚した時のそうじ(n = 1), 家事(お手伝い程度)(n = 1), 当事者でない親が対応できない時の後始末(散らかしや吐血)(n = 1), 酔った時に過度なスキンシップ, 電話で会いたい会いたいと懇願される(n = 1)

※各割合(%)の分母は Q28 で「当事者からよくない影響を受けた子どもがいる」と回答した者(n = 347)のうち、Q32 に回答した者(n = 332)とした。

※「あてはまるものはない」の割合が高い理由については、当事者からよくない影響を受けた子どもがいたとしても、当事者の世話はしていなかった場合があるためと考えられる。

10-3. 当事者の子どもが 18 歳までに当事者から受けた影響(子どもが回答者自身ではない場合)

Q33 その子どもは 18 歳までに、当事者(親)のアルコール問題から以下のような影響を受けましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

当事者の子どもが 18 歳までに当事者のアルコール問題からどのような影響を受けたかたずねた。その結果、「こどもにこころの不調があらわれた」(49.7%) が最も多く、次いで「こどもが当事者から暴言・暴力をふるわれた」(35.6%), 「こどもがこどもらしくいられなかった」(32.6%) が多かった。

受けた影響	人数(%)
こどもにこころの不調があらわれた	169 (49.7%)
こどもにからだの不調があらわれた	58 (17.1%)
こどもが当事者から暴言・暴力をふるわれた	121 (35.6%)
こどもが当事者に暴言暴力をふるった	30 (8.8%)
こどもが不登校になった	48 (14.1%)
こどもの勉強に支障がでた	56 (16.5%)
こどもが失職した	9 (2.6%)
こどもがこどもらしくいられなかった	111 (32.6%)
こどもに友達ができにくかった	32 (9.4%)
こどもの進学に支障がでた	39 (11.5%)
あてはまるものはない	80 (23.5%)

※各割合(%)の分母は Q28 で「当事者からよくない影響を受けた子どもがいる」と回答した者(n = 347)のうち、Q33 に回答した者(n = 340)とした。

※「あてはまるものがない」の割合が 20%以上であるのは、「その他」の選択肢がなかったため選ぶ選択肢がなかったものと考えられる。

10-4. 当事者の子どもが 18 歳までに行った当事者への世話の種類(子どもが回答者自身の場合)

Q37 あなたは、18 歳までに当事者(親)に対して以下のお世話を行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

回答者自身が子どもの場合に、回答者が 18 歳までに当事者に対してどのような世話をしていたかたずねた。その結果、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(38.2%)と「あてはまるものはない」(38.2%)が最も多く、次いで「家事(食事の準備や家事、洗濯)」(32.4%)が多かった。

世話の種類	人数(%)
家事(食事の準備や家事, 洗濯)	22 (32.4%)
きょうだいの世話や保育所への送迎	6 (8.8%)
身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	0 (0.0%)
外出の付き添い(買い物, 散歩など)	5 (7.4%)
通院の付き添い	4 (5.9%)
感情面のサポート(愚痴を聞く, 話し相手になるなど)	26 (38.2%)
見守り	5 (7.4%)
通訳(日本語や手話など)	2 (2.9%)
金銭管理	5 (7.4%)
薬の管理	0 (0.0%)
自助グループの付き添い	2 (2.9%)
その他	1 (1.5%)
あてはまるものはない	26 (38.2%)

※その他の内訳: 仕事の手伝い(n = 1)

※各割合(%)の分母は Q34 で「当事者から良くない影響を受けた」と回答した者(n = 73)のうち、Q37 に回答した者(n = 68)とした。

※「あてはまるものはない」の割合が高い理由については、当事者からよくない影響を受けた子どもがいたとしても、当事者の世話はしていなかった場合があるためと考えられる。

10-5. 当事者の子どもが18歳までに当事者から受けた影響(子どもが回答者自身の場合)

Q38 あなたは18歳までに、当事者(親)のアルコール問題から以下のような影響を受けましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択)

回答者自身が子どもの場合に、回答者が18歳までに当事者のアルコール問題からどのような影響を受けたかたずねた。その結果、「当事者から暴言・暴力をふるわれた」(54.2%)が最も多く、次いで「こころの不調があらわれた」(48.6%)、「こどもらしくいられなかった」(44.4%)が多かった。

受けた影響	人数(%)
こころの不調があらわれた	35 (48.6%)
からだの不調があらわれた	21 (29.2%)
当事者から暴言・暴力をふるわれた	39 (54.2%)
当事者に暴言暴力をふるった	13 (18.1%)
不登校になった	4 (5.6%)
勉強に支障がでた	13 (18.1%)
失職した	1 (1.4%)
こどもらしくいられなかった	32 (44.4%)
友達ができにくかった	17 (23.6%)
進学に支障がでた	7 (9.7%)
あてはまるものはない	10 (13.9%)

※各割合(%)の分母はQ34で「当事者から良くない影響を受けた」と回答した者(n=73)のうち、Q38に回答した者(n=72)とした。

11. 家族の自由記述の KJ 法による分析: 738 名の家族の語りから

Q39 【自由記述】最後に、アルコール問題を持つ方のご家族として、今後必要な援助や困っていることをご自由にお書き下さい。

家族の自由記述の内容を KJ 法の手法を援用して整理し、グループ化及び図解化をした。質問内容は「問 39 【自由記述】最後に、アルコール問題を持つ方のご家族として、今後必要な援助や困っていることをご自由にお書き下さい。」であった。本質問への回答者は 738 名であり、これは有効回答票 64.9%を占めた。KJ 法の手法を用いたグループ化の手法については、まず、自由回答から得た回答からラベルを作成し、その後、類似したラベルを収集して小カテゴリを作成し、次に類似した意味を持つ小カテゴリ収集し中カテゴリを作成した。この作業を繰り返す、これ以上カテゴリ分類が不可能であるところまでカテゴリ分類を行いグループ化した。小カテゴリを集める作業から先の分析は、筆者以外に KJ 法を用いたグループ分けの経験がある研究者、公認心理士、精神保健福祉士を含んだ 7 名で行った。グループ化の結果、6 つの大グループにまとめられた。大グループはそれぞれ、【治療と支援への家族の要望 (G1)】【治療・支援を受けて得られたもの (G2)】【当事者・家族が経験した依存の問題 (G3)】【社会への啓発の重要性 (G4)】【家族の持つ依存症の知識と認識 (G5)】【当事者が医療につながったきっかけ (G6)】であった。大グループの内容を以下に記述する。

【治療と支援への家族の要望 (G1)】

このグループは主に現存の治療システム・医療機関・相談支援などへの家族の要望が含まれた。以下、4 つの中グループとそのおおまかな内容を示す。

- ① [家族が希望する治療に対応してほしい]: 服薬治療をしてほしい、減酒でなく断酒の治療をしてほしい。
- ② [現状の治療システムや支援者への批判と不満]: 医療関係者に依存症の知識をもってもらいたい、医療サービスへのアクセスの改善を求める。
- ③ [医療・相談機関の拡充と連携強化をしてほしい]: 専門医療機関や相談支援の体制の拡充をしてほしい、病院同士の連携を強化してほしい。
- ④ [当事者や家族への公的な支援を望む]: 当事者の自立を促す公的支援をしてほしい、公的な金銭支援があるとうれしい。

【治療・支援を受けて得られたもの (G2)】

このグループは当事者が支援や治療につながったことによるポジティブな変化や感謝についての語りが含まれた。以下、4 つの中グループとそのおおまかな内容を示す。

- ① [家族として当事者が回復することを願っている]: 当事者に継続して治療を受けてほしい、当事者と共に依存症に向き合っていきたい
- ② [支援への感謝と心境の変化]: 医療従事者・支援者には感謝している、家族の依存症に対する見方が変わった。
- ③ [当事者の治療はうまくいっている]: 治療を受けて当事者が安定した、当事者の断酒や減酒がうまくいっている。

④ [自助グループに参加してよかったことと、参加へのためらい]：当事者・家族の両方が家族会に助けられた、家族自身の疲弊などから家族会や自助グループへの参加をためらってしまう。

【当事者・家族が経験した依存の問題 (G3)】

このグループには、当事者の依存症が家族に及ぼした影響や、当事者が依存によって抱えている問題についての語りが含まれた。以下、7つの中グループとそのおおまかな内容を示す。

- ① [依存症の当事者家族への影響の不安]：当事者とその家族が高齢であること（になること）への不安、当事者の就業・復職への今後の不安がある。
- ② [当事者の治療がうまくいかないことへの不安やあきらめ]：私は当事者が断酒することをあきらめている、飲むなどとは言わないがせめて今よりまともになってほしい。
- ③ [当事者の犯罪・迷惑行為によって困った]：家族が当事者の後始末をしなければいけなかった、暴言・暴力・物を壊すなどの被害を私や家族が受けた。
- ④ [飲酒によって当事者が様々な問題を抱えている]：飲酒のせいで認知機能の低下がある、当事者が数か月入浴していない。
- ⑤ [当事者が周囲の助言を聞かず困っている]：当事者が医療や支援とつながってくれない、当事者に飲酒をやめさせるのに苦労した（している）。
- ⑥ [当事者とのコミュニケーションがうまくいかない]：当事者や他の家族とのコミュニケーションに問題をかかえている、当事者に対して怒りや腹立たしさを感じている。
- ⑦ [もっと早く問題に気づいていれば当事者の苦しみを軽減できたかもしれない]：もっと早く依存症のことを知っていたらと後悔している、深刻な事態になる前に気づけなかったことへの後悔。

【社会への啓発の重要性 (G4)】

このグループには、アルコール依存症についての社会への啓発と現在のアルコール販売・広告への危惧などの語りが含まれた。以下、2つの中グループとそのおおまかな内容を示す。

- ① [社会への啓発を進めて、偏見を解消してほしい]：社会にもっと依存症の知識を啓発してほしい、依存症に関する誤解や偏見にさらされている。
- ② [日本の寛容な飲酒文化への危機感]：アルコールは薬物なのに日本は寛容すぎる、酒や飲酒文化が悪いと思う。

【家族の持つ依存症の知識と認識 (G5)】

このグループは1つの中グループのみからなり、家族がさまざまな経験や社会の影響で家族の知識や認識が変わる様子が語られていた。中グループの内容を以下に示す。

- ① [家族の語る依存症の知識と認識]：お酒さえ飲まなければ良いというわけではない、アルコール依存症は恐ろしい問題があるとたくさんの方に認知してもらいたい。

【当事者が医療につながったきっかけ (G6)】

このグループは1つの中グループのみからなり、当事者が医療につながったきっかけについて様々な切り口から語られていた。中グループの内容を以下に示す。

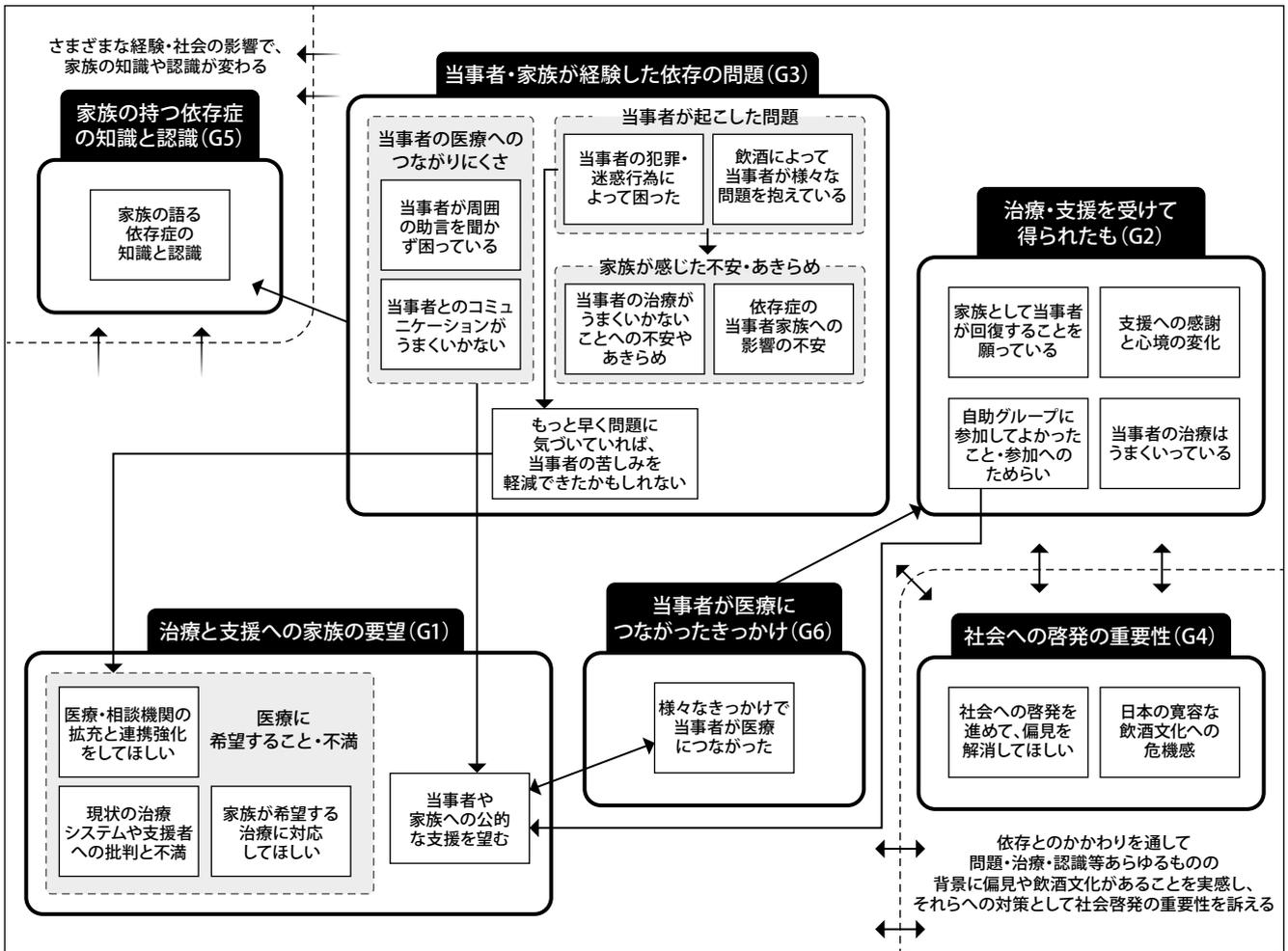
- ① [様々なきっかけで当事者が医療につながった]：異常に変化している当事者に家族が困って病院

に行った，紹介を受けて今の病院につながった。

上記のグループ化を経て，図解化を行った。完成した図解を図1に示す。まず，G3【当事者・家族が経験した依存の問題】は「当事者の医療へのつながりにくさ」「当事者が起こした問題」「家族が感じた不安・あきらめ」の3つの島に分けることができた。3つの島の中では，「当事者が起こした問題」は「家族が感じた不安・あきらめ」につながる。また，「当事者の医療へのつながりにくさ」はG1の「当事者や家族への公的な支援を望む」ことにつながっていると推察される。さらに，「当事者や家族への公的な支援を望む」ことはG6の「様々なきっかけで当事者が医療につながった」と相互に関係しあうと考えられる。なお，G6【当事者が医療につながったきっかけ】により支援につながり，G2【治療・支援を受けて得られたもの】を得たと解釈することができよう。また，「当事者が起こした問題」の島は，G3の「もっと早くに問題に気づいていれば，当事者の苦しみを軽減できたかもしれない」につながり，ひいてはこの後悔がG1の島「医療に希望すること・不満」(「医療・相談機関の拡充と連携強化をしてほしい」「現状の治療システムや支援者への批判と不満」「家族が希望する治療に対応してほしい」)につながると考えられる。G2の語りの中には，「自助グループに参加してよかったこと・参加へのためらい」と一部参加をためらう声も入っており，これはG1の「当事者や家族への公的な支援を望む」ことにつながりうる。これらから，医療につながる前もつながった後も，さまざまな不安や後悔を感じながら当事者と接していることが伺えた。

G5【家族の持つ依存症の知識と認識】は他の大グループの影響を受けた語りの島であると捉えることができた。G5では，家族が社会に影響されつつ様々な経験を経たことで，知識や認識が変わったことが示された。G4【社会への啓発活動の重要性】は他の大グループと比べるとメタ的な視点からの語りであった。依存のどのかわりを通して，問題・治療・認識等あらゆるものの背景に偏見や飲酒文化があることを実感するとともに，それらへの対策として社会啓発の重要性を訴えており，他のすべてのグループと双方向に影響し合う構造があるといえる。

【KJ 法を援用した分類の図解】



12. 総合考察

本調査は全国のアアルコール依存症専門医療機関に来訪した当事者家族を対象としているため、一般医療や相談窓口から紹介されて来る比較的重症のケースや、専門医療機関につながってから断酒を継続しているケースなど、さまざまなケースが含まれている。回答者は女性、配偶者が多いものの、男性や親子関係の回答もあり、家族と当事者の性別、年齢、関係性が多様化していると思われる。「5-3. 回答者の年齢と当事者との関係性」では、70代80代の回答者の多くは、当事者は「回答者の子ども」を選択しており、いわゆる8050問題がアルコール関連問題の領域でもすでに始まっている。

初めて相談してから回答時までの期間は1年以上10年未満が約50%を占めるが、6ヵ月未満の相談に繋がって間もない時期や10年以上の長期間もそれぞれ15%を超えており、様々な段階から幅広く回答が得られている。当事者の飲酒状況は、「やめている」、「飲酒できない状態（入院、服薬など）」を合わせると6割を超えている一方で、「やめていない」「やめてはいないが以前より減った」「以前より増えた」を合わせると3割を超えており、断酒を開始していない不安定な段階での回答も含まれている。

平成20年度の調査は主に断酒会会員を対象に行われ、「半数近くの家族が生活や経済的困難に直面し、約3割の家族は自らが精神的又は身体的問題を抱える」と報告されている⁴。今回の調査は主にアルコール依存症専門医療機関の受診患者家族を対象に行われ、アルコール関連問題をもつ人の家族が身体的苦痛、抑うつ・不安、経済的困難を感じていることが改めて確認された。自助グループで語られる「この世の地獄を見なければアルコール依存症者のいる家庭を見よ」という言葉が表すように、「7. 家族の精神的健康」では、「抑うつ・不安」の問題がある者（K6得点5点以上）は73.7%であった。特に、女性の回答者では「重度のうつ・不安障害が疑われる」（K6得点13点以上）が31.9%であり、より深刻な影響を受けていると考えられる。「9. 家族の経済的困難」では、42.1%がアルコール問題によって経済的な困難を感じたと回答している。

「10. 当事者のアルコール問題から影響を受けた子どもについて」では、回答者自身は当事者の子どもではないが、「当事者から良くない影響を受けた子ども」が家族にいる、と答えたものが347名、回答者自身が「当事者から良くない影響を受けた子ども」であったものが73名であった。当事者の子どもが18歳までに当事者から受けた影響についての回答は、回答者が当事者の子どもでない場合には「こころの不調があらわれた」（49.7%）が最も多かったのに対し、回答者が当事者の子ども自身の場合には「当事者から暴言・暴力をふるわれた」（54.2%）、「こころの不調があらわれた」（48.6%）の順に多かった。これは、「こころの不調があらわれた」の割合が同程度であることから、影響を受けた子どもが回答者自身の場合は暴言・暴力をふるわれたことを覚えているのに対し、回答者自身ではない影響を受けた子どもについては暴言・暴力をふるわれた場面を必ずしも目撃していない場合がある可能性も考えられる。

「11. 自由記述」では、治療システム・医療機関・相談支援などへの家族の要望、問題飲酒によって生じた様々な影響、社会への啓発の重要性などが示された。具体的には、支援体制の拡充、連携強化、当事者の自立を促す公的支援等の要望、アルコール依存症の正しい知識を得るための啓発、偏

⁴ 平成20年度障害者保健福祉推進事業「依存症者の社会生活に対する支援のための包括的な地域生活支援事業」総括事業報告書（事業代表者：樋口進）平成21年3月

見解消のための取組，当事者の医療へのつながりにくさへの対策などが挙げられた。

以上より，平成 20 年度の調査とは主な調査対象や調査手法が異なるため，直接比較はできないが，今回の調査でもアルコール関連問題をもつ人の家族が身体的苦痛，抑うつ・不安，経済的困難を抱えていて，家族支援のニーズが高いことが確認された。

巻末資料

関係機関・関係者一覧

(1) 担当省庁・部局

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 依存症対策推進室
--

(2) 研究代表者

氏名	役職	所属
遠山 朋海	精神科医長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

(3) 共同研究者

氏名	役職	所属
浦山 悠子	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴山 笑凜	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
高橋 陽介	医療社会事業専門員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
辻本 耐	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	プロジェクト研究員	南山大学 倫理研究所
新田 千枝	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	助教	筑波大学 医学医療系
柴崎 萌未	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
前園 真毅	医療福祉相談室長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

(4) 事務局

氏名	役職	所属
遠山 朋海	精神科医長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
浦山 悠子	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴山 笑凜	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
新田 千枝	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	助教	筑波大学 医学医療系
柴崎 萌未	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

(5) 概要報告書 執筆者

氏名	役職	所属
遠山 朋海	精神科医長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
浦山 悠子	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
辻本 耐	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	プロジェクト研究員	南山大学 倫理研究所
柴崎 萌未	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
高橋 陽介	医療社会事業専門員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴山 笑凜	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
新田 千枝	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	助教	筑波大学 医学医療系
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

(6) 「アルコール問題を持つ方のご家族の現状と支援に関する調査報告」パンフレット 執筆者

氏名	役職	所属
遠山 朋海	精神科医長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
浦山 悠子	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴崎 萌未	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
辻本 耐	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	プロジェクト研究員	南山大学 倫理研究所
古賀 佳樹	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
高橋 陽介	医療社会事業専門員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
柴山 笑凜	研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
新田 千枝	非常勤研究員	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
	助教	筑波大学 医学医療系
松下 幸生	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター

(7) 「アルコール問題を持つ方のご家族の現状と支援に関する調査報告」パンフレット 作成協力者

氏名	所属
金森 泰子	川崎断酒新生会つばき家族会・パトリス家族会
相澤 八千代	川崎断酒新生会つばき家族会・パトリス家族会
白井 明美	川崎断酒新生会つばき家族会・パトリス家族会

(8) 研究協力施設一覧

「研究協力施設一覧」

(9) 調査票

「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」

研究協力施設一覧(敬称略・50音順)

安東医院	医療法人梨香会秋元病院
医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	医療法人和気会新生会病院
医療法人杏野会各務原病院	一般財団法人創精会松山記念病院
医療法人稲門会いわくら病院	茨城県立こころの医療センター
医療法人横田会向陽台病院	うえむらメンタルサポート診療所
医療法人回生会秋田回生会病院	岡山県精神科医療センター
医療法人寛容会森口病院	桶狭間病院藤田こころケアセンター
医療法人岩屋会岩屋病院	岩手県立南光病院
医療法人群馬会赤城高原ホスピタル	公益財団法人井之頭病院
医療法人健生会明生病院	公益財団法人慈圭会慈圭病院
医療法人建悠会吉田病院	公益財団法人正光会宇和島病院
医療法人見松会あきやま病院	公益財団法人復光会垂水病院
医療法人財団厚生協会東京足立病院	公益財団法人林精神医学研究所附属 林道倫精神科神経科病院
医療法人財団青溪会駒木野病院	国立病院機構さいがた医療センター
医療法人桜桂会犬山病院	国立病院機構榊原病院
医療法人山田会八代更生病院	国立病院機構肥前精神医療センター
医療法人資生会八事病院	香川県立丸亀病院
医療法人社団健仁会船橋北病院	埼玉県済生会鴻巣病院
医療法人社団光風会三光病院	三重県立こころの医療センター
医療法人社団三交会 三交病院	滋賀県立精神医療センター
医療法人社団志恩会相川記念病院	社会医療法人 聖ルチア会 聖ルチア病院
医療法人社団翠会成増厚生病院	社会医療法人あいざと会藍里病院
医療法人社団翠会八幡厚生病院	社会医療法人高見徳風会 希望ヶ丘ホスピタル
医療法人社団飯盛会倉光病院	社会医療法人財団松原愛育会 松原病院
医療法人社団緑誠会 光の丘病院	社会医療法人二本松会かみのやま病院
医療法人十全会聖明病院	社会医療法人二本松会山形さくら町病院
医療法人小谷会小谷クリニック	社会医療法人芳和会菊陽病院
医療法人浄心会園田病院	社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院
医療法人植松クリニック	社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院
医療法人新生会 豊後荘病院	手稲溪仁会病院
医療法人仁康会小泉病院	寿泉堂 松南病院
医療法人成精会刈谷病院	上林記念病院
医療法人晴明会糸満晴明病院	新潟県立精神医療センター

医療法人正雄会呉みどりヶ丘病院	石川県立こころの病院
医療法人誠心会神奈川病院	大阪精神医療センター
医療法人青仁会青南病院	長野県立こころの医療センター駒ヶ根
医療法人静光園第二病院	東京都立松沢病院
医療法人全隆会指宿竹元病院	東布施野田クリニック
医療法人藤井クリニック	東北会病院
医療法人同仁会こなんホスピタル	のぞえの丘病院
医療法人富松記念会 三池病院	藤代健生病院
医療法人芳州会村井病院	特定医療法人三原病院
医療法人豊司会新門司病院	栃木県立岡本台病院
医療法人豊和会南豊田病院	泊ファミリークリニック
医療法人北仁会旭山病院	八木植松クリニック
医療法人北仁会石橋病院	福岡県立精神医療センター 太宰府病院
医療法人明生会関病院	よこがわ駅前クリニック
医療法人孟仁会悲田院クリニック	和歌山県立こころの医療センター
医療法人優なぎ会雁の巣病院	

アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート

アンケートの答え方

1. 回答によって、答える質問が変わります。矢印や説明文の指示に従ってください。似た内容の質問がありますがすべてにお答えください。
2. 「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。
3. 本調査は、インターネットでも回答できます。同封の「アンケートご協力をお願い」に印字したQRコードまたはURLから回答ページにアクセスしてください。

【個人情報の保護について】

4. アンケートでは、お名前などの個人情報は聞きません。あなたの回答が特定されたり、外部に漏れたりすることはありません。
5. 回答は「〇〇という回答が△△%」というように統計的数字にまとめ、個人が特定できない状態で公表されます。自由記載の回答については、個人が特定されない範囲で公表する予定です。

【調査協力への同意について】

6. 調査に協力するかどうかは、あなたの自由意思に基づいて決めていただくものです。
7. 協力しないことによる不利益は一切ありません。一度同意をされても、いつでも途中でやめることができます。

実施主体

独立行政法人国立病院機構
久里浜医療センター
神奈川県横須賀市野比 5-3-1



お問い合わせ先・調査実施委託業者

電話 : 03-6822-7508 (平日 9時~17時・土日祝日を除く)
株式会社リサーチワークス 調査研究セクション
〒104-0041 東京都中央区新富 1-14-3 STUDIO 南八丁堀 1F

Q10 あなたはアルコール問題をもつ当事者と同居していますか。(○はひとつ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

Q11 アルコール問題をもつ当事者の職業を教えてください。(○はひとつ)

1	自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	5	家事専業(専業主婦・専業主夫)
2	勤め(正社員・正職員)	6	無職(求職中、失業中、進路未定を含む)
3	勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	7	無職(退職者、今後就業予定のない者)
4	学生	8	その他〔 〕

Q12 アルコール問題をもつ当事者は、アルコール以外の依存の問題を抱えていますか。
あてはまる全ての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	アルコール問題のみ	2	薬物の問題	4	買い物の問題	6	ゲームの問題
		3	ギャンブルの問題	5	盗癖	7	その他〔 〕

Q13 家族であるあなたが困っている当事者の問題は何ですか？

困っている問題を1番目から3番目まで選び下の回答欄にア～オで記入してください。

1番： 2番： 3番：

ア	身体的問題(肝炎などの身体の病気・身体機能の低下など)
イ	精神的問題(うつ、不安、睡眠障害、物忘れなど)
ウ	社会的問題(飲酒運転、学業への影響、仕事への影響など)
エ	家庭の問題(家庭不和、DV、別居など)
オ	経済的問題(休職、失業、収入の低下)

Q14 あなたは、当事者に断酒/減酒してほしいと思いますか。

あなたが希望する治療目標として最もあてはまるもの1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	断酒	3	その他〔 〕
2	減酒	4	わからない

Q15 アルコール問題をもつ当事者は現在飲酒をやめていますか。

最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	やめている (断酒期間：__年・__ヵ月・__週間・__日)	5	やめていない
2	飲酒できない状態(入院、服役など)	6	その他〔 〕
3	やめてはいないが以前より減った	7	わからない
4	以前より増えた		

Q16 あなたが当事者のアルコール問題に気づいたのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答え下さい。※□に数字を記入

西暦 年 月頃

Q17 あなたが当事者のアルコール問題で初めて病院や相談機関を利用したのはいつですか？

おおよその時期を西暦でお答えください。※□に数字を記入

西暦 年 月頃

Q18 アルコール問題をもつ当事者の、アルコールの専門医療機関での治療経験について、最もあてはまるものひとつに○をつけてください。(○はひとつ)

1	継続して治療を受けている
2	初めて治療を受ける(予定)
3	以前は治療を受けていたが今は受けていない
4	治療を受けたことがない
5	わからない

Q19 あなたは過去 30 日間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適切と思われる番号(0:全くない～4:いつも)を選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ) ※あなたご自身のことについてお答えください。

過去 30 日の間、		全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
①	神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4
②	絶望的だと感じましたか	0	1	2	3	4
③	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4
④	気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか	0	1	2	3	4
⑤	何をするのも骨折りだと感じましたか	0	1	2	3	4
⑥	自分は価値のない人間だと感じましたか	0	1	2	3	4

Q20 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

Q21 あなたは、これまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

Q22 あなたは当事者の世話をされていて下記の項目のように思うことが過去 1 ヶ月の間にどれくらいありましたか。最も適切と思われる番号(1:いつも～5:全くない)を選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

		いつも思う	よく思う	ときどき思う	ほとんど思わない	全く思わない
①	当事者の世話(介護)をしていて身体の痛みを感じる	1	2	3	4	5
②	当事者の世話(介護)のために自分の健康をそこなった	1	2	3	4	5

Q24 当事者のアルコール問題が起こってから、あなたは経済的な困難（家計の支払いなどについての困難）を感じたことはありますか。（○はひとつ）

1	ない	2	ある
---	----	---	----

「ない」と回答した方は
Q26へ進む
【Q25】はとばす。

「ある」と回答した方は
Q25へ進む

Q25 以下の2つの項目について、最もあてはまる番号に○をつけてください。
※あなたご自身のことについてお答えください。

① この1年で、家計の支払い（税金、保険料、通信費、電気代、クレジットカードなど）に困ったことはありますか。（○はひとつ）

1	ない	2	1回ある	3	2～3回ある	4	4～5回ある	5	6回以上ある
---	----	---	------	---	--------	---	--------	---	--------

② この1年間に、給与や年金の支給日前に、暮らしに困ることがありましたか。（○はひとつ）

1	ない	2	1回ある	3	2～3回ある	4	4～5回ある	5	6回以上ある
---	----	---	------	---	--------	---	--------	---	--------

Q26 当事者の方のアルコール問題に関わり始めてからあなたはどのように変化しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
① 体調が悪くなった	1	2	3	4
② うつや不安を生じた	1	2	3	4
③ 精神科の治療を受けるようになった	1	2	3	4
④ 生活や仕事がうまくいかなかった	1	2	3	4
⑤ 金銭的に苦しい状態になった	1	2	3	4
⑥ 当事者から暴言、暴力を受けるようになった	1	2	3	4
⑦ 当事者に暴言、暴力を振るってしまうようになった	1	2	3	4
⑧ 家庭不和・別居・離婚を経験した	1	2	3	4
⑨ 育児が十分にできなくなった	1	2	3	4
⑩ 周囲（親戚、近所など）から孤立するようになった	1	2	3	4
⑪ 当事者の行動を監視するようになった	1	2	3	4
⑫ 当事者の代わりにアルコール飲料を購入するようになった	1	2	3	4

※ここからは、アルコール問題をもつ当事者の子どもについてお伺いします。

Q27-1 アルコール問題をもつ当事者に子どもはいますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	<u>いる</u>	2	<u>いない</u>
---	-----------	---	------------

「2」と回答した方は最終ページの

質問 C

にお進みください。

Q27-2 アルコール問題をもつ当事者の子どもとは、あなた自身のことですか？

あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	<u>はい、わたし自身が当事者の子どもです。</u>	2	<u>いいえ、わたし自身ではありません。</u>
---	----------------------------	---	--------------------------

「2」と回答した方は8ページの

質問 A

にお答えください。

「1」と回答した方は9ページの

質問 B

にお答えください。

質問 A

※この質問は、アルコール問題をもつ当事者の子どもについて尋ねるものです。

Q28 アルコール問題をもつ当事者から良くない影響を受けたと思われる子どもはいますか。

1 影響を受けた子どもがいる

2 影響を受けた子どもはいない

「2」と回答した方は最終ページの
質問 C にお進みください。

※当事者から影響を受けた子どもについて、以下の質問にお答えください。

子どもが2人以上いる場合は、最も影響があると思う人を1人思い浮かべて回答してください。

Q29 その子どもの現在の年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満

□	□
---	---

歳

Q30 その子どもにとって、当事者(親)は、以下のどれに当てはまりますか。(○はひとつ)

1 実父・実母(血縁関係のある親)

3 継父・継母

2 養父・養母

4 その他 []

Q31 その子どもは当事者(親)と同居していますか。現在と、18歳までの頃のそれぞれの時期について、あてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

現在

1 同居している

2 同居していない

18歳まで

1 同居していた

2 同居していなかった

Q32 その子どもは、18歳までに当事者(親)に対して以下のお世話を行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1 家事(食事の準備や家事, 洗濯)

7 見守り

2 きょうだいの世話や保育所への送迎

8 通訳(日本語や手話など)

3 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)

9 金銭管理

4 外出の付き添い(買い物, 散歩など)

10 薬の管理

5 通院の付き添い

11 自助グループの付き添い

6 感情面のサポート

12 その他 []

(愚痴を聞く, 話し相手になるなど)

13 あてはまるものはない

Q33 その子どもは18歳までに、当事者(親)のアルコール問題から以下のような影響を受けましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 こどもにこころの不調があらわれた

7 こどもが失職した

2 こどもにからだの不調があらわれた

8 こどもがこどもらしくいられなかった

3 こどもが当事者から暴言・暴力をふるわれた

9 こどもに友達ができにくかった

4 こどもが当事者に暴言暴力をふるった

10 こどもの進学に支障がでた

5 こどもが不登校になった

11 あてはまるものはない

6 こどもの勉強に支障がでた

質問 B

※この質問は、アルコール問題をもつ当事者の子どもであるあなた自身について尋ねるものです。
18歳までの頃を振り返ってお答えください。

Q34 18歳までに、あなたはアルコール問題をもつ当事者（親）から良くない影響を受けましたか。

1 影響を受けた

2 影響は受けなかった

「2」と回答した方は最終ページの
質問 C にお答えください。

※あなたについて、以下の質問にお答えください。

Q35 あなたにとって、当事者（親）は、以下のどれに当てはまりますか。（○はひとつ）

1 実父・実母（血縁関係のある親）

3 継父・継母

2 養父・養母

4 その他 []

Q36 あなた18歳までに、当事者（親）と同居していましたか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。（○はひとつ）

18歳まで

1 同居していた

2 同居していなかった

Q37 あなたは、18歳までに当事者（親）に対して以下のお世話を行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家事（食事の準備や家事、洗濯）

7 見守り

2 きょうだいの世話や保育所への送迎

8 通訳（日本語や手話など）

3 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）

9 金銭管理

4 外出の付き添い（買い物、散歩など）

10 薬の管理

5 通院の付き添い

11 自助グループの付き添い

6 感情面のサポート

12 その他 []

（愚痴を聞く、話し相手になるなど）

13 あてはまるものはない

Q38 あなたは18歳までに、当事者（親）のアルコール問題から以下のような影響を受けましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

1 こころの不調があらわれた

7 失職した

2 からだの不調があらわれた

8 こどもらしくいられなかった

3 当事者から暴言・暴力をふるわれた

9 友達ができにくかった

4 当事者に暴言暴力をふるった

10 進学に支障がでた

5 不登校になった

11 あてはまるものはない

6 勉強に支障がでた

最終ページ**質問 C** にお進みください。

質問 C

※この質問への回答は任意です。

お答えにならない場合は本アンケートは終了となります。

Q39 【自由記述】最後に、アルコール問題をもつ方のご家族として、今後必要な援助や困っていることをご自由にお書き下さい。

以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。

記入もれはありませんか？

なるべくお早めに謝礼申込書とともに返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。



アルコール関連問題をもつ人の家族の実態とニーズに関する
調査「アルコール関連問題をもつ方のご家族へのアンケート」
概要報告書

印刷・発行日 : 2026年2月4日
編集 : 久里浜医療センター 臨床研究部
〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1
<https://kurihama.hosp.go.jp/>
照会 : 046-813-1080(直通)[平日9:00～17:00]
臨床研究部
印刷・製本 : 株式会社コトブキ企画